質問事項1、地域コミュニティの再生を

米ハーバード大学などの研究チームは、日本を含む世界の22カ国に住む約20万人の幸福度を多面的にアンケート調査した結果を公表した。日本は最下位の22位。「幸福感や人生の満足度に加えて、心身の健康や交友関係なども調べ、日本は楽観主義や自由、達成感などの多くの指標でスコアが最も低かった。親しい友人がいると答えた人が顕著に少なく、不安や心配などを感じる人も多く、人間関係の広がりや幸福度と関連している可能性がある」と指摘されている。私は、自治会が「人と人とのつながり」のために、とても大きな役割を担っていると考え、地域住民からは、自治会活動への不安や心配のお声を頂戴している。災害時などにも備え、「人と人とのつながり」を強化していくことが大切であると考え、そこで以下伺う。

(1) どんな小さなことでも、すべての方々が、喜びや生きがいを与え合うことで地域も活性化していくと考える。地域コミュニティの再生に対して当町の見解は。

(2) 自治会活動の課題をどのように分析されているのか。また、自治会活動を支えるために現在はどういう取組をされ、今後はどういった取組をされていくのか。

(3) 当町では、地域にある資源と地域住民のできることを組み合わせ、杉戸町地域
支え合い型移動支援事業を行っている。本事業の進捗は。

「杉戸町をより良くしていきたいという方をどんどん増やしていく」ということが地
域コミュニティの再生につながると私は考えております。「町が良くなったらいいな」
ではなく、「町を良くしていこう」という与える側を増やしていくことが大切だと思
っております。町づくりの主体は町ではなく町民です。町民がこういう町にしていきた
いことへのサポートやときには軌道修正が必要なこともあると思いますが、町民主体
の町づくりをサポートしていくことが重要だと思っております。この地域を私たちが
守っていききたい、よくしていきたい、発展させていききたい、そんな愛郷心から、町づ
くりに参加してくださる方をもっともっと増やしていくことが大事だと思ってお
ります。それでは、再質問させていただきます。

○日常の小さな交流や支え合いの積み重ねによって地域が活性化されるとございました。世代間交流イベントや町歩きツアーなど交流があることは理解させていただきました。趣味趣向が合う方同士の交流もとても大切だと思っております。しかし、例えば災害時、趣味趣向が合う方が必ずしもご近所にいるとは限りません。災害発生後、避難時に誰が避難できたのか、誰がまだ避難できていないかなど分からないようなことはあってはならないと思います。ご高齢の方がひとりだけの世帯が増えております。亡くなれたときに誰も気付かないような、そんな悲しい地域になってはなりません。そういう意味でも、平時からのご近所同士でのつながりはとても重要だと思えます。当町の考える「地域活動の促進と地域コミュニティの醸成」とは何を目指しているのか伺います。

子ども会など、今まであったコミュニティを復活させるのが良いかというのは、いまの私には判断できません。新しい形のコミュニティがあっても良いとも思っております。困ったときには支え合えること、ひとりひとりが安心して暮らせる居場所があること、当町からの情報がしっかり行き届くようにすることは必要であると考えております。当町で開催されるイベントや町からのお知らせなど、広報すぎとに掲載して周知もされていますが、今後例えば、広報の配布を行政区単位で実施するとしたら、行政区においても担い手不足の問題はあり、負担は大きいと思われます。それでは、業者に頼むとなると、財政状況が厳しいなか、予算をそこに充てるのは適切なのかと思っております。

○価値観の変化、ライフスタイルの多様化・複雑化している中、人間関係や地域の連帯感、住民の相互扶助の精神やふれあいの希薄化が進んでいると受け止めておられる一方で、自治会は自治組織だからと、ある意味で地域コミュニティの衰退を推進するようなことはあってはならないと思っております。もちろん住民自治が原則ですが、自治できるようにフォローして、寄り添うことは大切なことだと思います。当町では、各区の区長の方々からは、お悩みや課題などヒアリングして、各区における問題点や課題を把握されているのか伺います。

○区長会にて、「自治会・町内会及び区の手引き」を配布しご提示されているという
ことですが、町からの連絡事項が主になっていたり、町から区長の方々へ、一方的に説
明やお願いする時間になっていないか伺います。

○「コミュニティ助成事業」「コミュニティづくり運動助成事業」「花いっぱい運動助
成事業」「防災資材の購入や防災訓練実施への助成」と補助金を出す等、物資的な支援
で良しとしているところはないか伺います。

○特に若い世代は、自治会に加入してくれないようなお声もお聞きしております。若
い世代が自治会に加入しない理由や地域コミュニティに何を求めているのかなどを把
握されているのか伺います。

○住民の自治組織の担い手不足を解消していくために、今後新たに取り組んでいかれ
ることはあるのか伺います。

○杉戸町地域支え合い型移動支援事業に関して伺います。自動車免許返納後の移動手段も大きな課題だと思っております。運転免許証を返納したら、買い物に行けなくて困るなど、数多くお聞きしています。当町でも、どのような取組が良いかは検討に検討を重ねてくださっておりますが、私は、行政での支援（公助）を検討する一方で、自助と共助をどのように強化をしていくかを検討することが、とても重要だと考えております。各個人やご家族での支え合い（自助）、次に地域での支え合い、ここに民間の各種団体や企業も含みます（共助）、そして行政での支援（公助）、この優先順位が大切だと考えております。「行政でやってもらえるなら、行政でやらせよう」という考え方が強くなればなるほど、地域コミュニティの衰退に繋がりますし、町の財政的な負担が増えていくことにも繋がるのではないかと考えております。当事業の利用延べ人数が469名の増となりました。補助金交付は2団体と変わっておりません。延べ人数が増となった要因や今後の課題を伺います。

○（杉戸町地域支え合い型移動支援事業に対して）担い手を増やしていくために現在取り組まれていることや、今後取り組まれていくことを伺います。

人と人のつながり、地域での支え合い、これは失われてはならないと思います。時代の変化に合わせてコミュニティのあり方も変化しても良いと思います。よりよいコミュニティとは何か、引き続き私も調査研究して参ります。他の人のために何かしたい、この町をよくしていきたいとそういう思いを持った方々の一歩踏み出すサポートや、同じ思いを持つ方々が意見交換などできる場所づくりに、より一層に取り組んでいただきたいと強く要望させていただき、次の質問に移ります。

質問事項2、生きがいを持続的に支えていける運営を

令和6年、議会だより編集委員会の取材で「すぎとピア」にある「ふるさと元気村」に伺った。「ここに来るのが楽しみ」という地域住民の方々の笑顔が印象的だった。しかし、室内に修繕が必要な箇所が見られ、備品の劣化も確認された。このような状況は「ふるさと元気村」に限ったことでもないと感じている。地域住民の「生きがい」を守るために、持続可能な運営の仕方を検討していく必要があるのではないかと考える。そこで以下伺う。

(1) 「ふるさと元気村」に関して伺う。生きがいづくりに向けた環境整備が必要だと考えるが、財政的にも維持管理が行き届いていない現状があると推察している。現状の課題やその解決策をどのように考えているのか伺う。また、維持費の捻出が重要だと考えるが、当町の見解は。

(2) 令和6年11月、奈良県三宅町にある「三宅町交流まちづくりセンターMiiMo」を視察し、当該施設の企画運営の最高決定機関に地域住民に就いていただく運営体制や、施設利用料を利用者に還元する循環型の財政を学ばせていただいた。このような運営体制や財政に対して当町の見解は。また、当該施設は直営で運営されている。「す

ぎとピア」は指定管理で運営されているが、杉戸町社会福祉協議会は当町と関わりが深い組織である。「すぎとピア」でもこのような運営体制や財政を参考に運営の仕方の検討を提案するが、当町の見解は。

(3) 当該施設の運営体制や財政を「ココティすぎと」にも生かして、より一層、地域住民を主役としたまちづくりが重要であると考えているが、当町の見解は。

トレーニング機器の修理を誠にありがとうございました。元気村の方々もとても喜んでいらっしゃる、有り難い限りでございます。この度、修理していただきたいという要望が社会福祉協議会に届いてはおりましたが、その後の進捗はどうなったのかなということが分からないと元気村の方々から相談がありました。トレーニング機器の他にも、資料の写真にあるように、修繕していただきたいところがあったり、施設の備品や利用のルールに関するお声もお聞きしております。また、楽しく交流できる場所にしてほしいとお声もお聞きしております。私は、利用団体と社会福祉協議会で積極的な情報共有や意見交換を行うことが必要だと思っております。地域住民の方々と一緒によりよい施設をつくり上げていくことが大事だと思います。施設のルールなど決められたことを守ることは必須です。しかし、そのルールが利用されている方々にとって納得感があるものなのかはとても重要だと思います。備品の購入に関しても、

利用団体の方々と話し合っ、何を購入するのかなどを決めたほうが良いのではないかと感じております。維持費の捻出で有料化等も含めて調査研究されていくということですが、こういったところも利用団体の方々とよく相談して、一緒に決めていくことが大切だと思っております。それでは再質問させていただきます。

○資料の議会だよりの記事内の主な質疑、こちら上田議員からの質問です。利用者の満足度を把握されることは、利用者の方々が利用しやすくなる施設にするためには重要だと思います。利用者の満足度調査は実施されるのか伺います。

○利用者の満足度調査でいただいたご意見をまとめて、利用団体の方々に結果を周知されたり、こんな声をいただきましたと、公表の承諾を得た上で、ご意見を集約して、それに対する回答も掲載して、施設内で公表するのはいかがでしょうか。

○資料の議会だよりが掲載されているページの次のページの三宅町の運営体制、企画運営の最高決定機関に町民に就いていただくという運営体制ですが、施設の性質が異なるということは理解させていただきました。同様の運営体制は難しいということですが、利用者の方々が利用しやすくなるには、利用者の方々がどのようなすぎとピアが理想なのかを把握することからはじまると思います。三宅町のように企画運営の最

高決定機関に地域住民に就いていただくということは、意思決定に対する責任も生じます。責任の所在をどうするかは十分な検討が必要になります。そのような点から、私は地域住民の参加はアドバイザーとして留め、最終的な意思決定は町でよいと思っております。ただ対話形式は必要だと思います。そこで例えば、利用団体の代表者と社会福祉協議会の方等で、施設の備品や施設利用のルール、利用団体の方からのご意見を共有して、その内容の話し合いなどを行う、代表者会議のようなものを、例えば3か月に1回ほどのペースで実施するのはいかがでしょうか。

○資料の次のページ、循環型の財政に関して伺います。三宅町の施設利用料が使用している施設の魅力アップのために使われていることが見える化されていることは、施設利用者の満足度向上や、地域の活性化に繋がると考えております。施設を維持していく、魅力アップを図っていくとなると、お金も掛かることであり、金銭的な部分の検討も避けられません。資料の次ページの三宅町の利用料金表ですが、御覧いただけますと高いです。なぜ高くても循環しているかといえば、使用料が利用者にしっかりと還元されていて、高いことへの納得感があるところだと思います。これをこのまま町でもということではございませんが、施設利用料を地域住民に還元していくところで、事業費の用途に関して、利用団体の方々とも協議の上で、要望をまとめ指定管理者に提出することはいかがでしょうか。

○ココティすぎとを中心としたエリアに関して伺います。地域住民を主体としたまちづくりとして、当町はどのような取組を実施されてきたのか伺います。

○地域住民を主体としたまちづくりにおいて、ココティすぎと周辺に住んでいる方々からの視点も大切だと思います。1年が経過し、ココティすぎと周辺に住んでいる方々に対して、ココティすぎとをどのように思っているのかのような聞き取り調査はされたことがあるのか伺います。

様々な背景があると思いますが、いまある課題や今後どのような施設を目指していくか等、町で抱え込んでしまうのではなく、利用されている方々と「どのようにしていきたいですか」と投げかけ、一緒に考えて、利用者の方々も施設づくりに参加して、よりよい地域交流の場となっていっていただきたいと考えております。地域住民の方々との対話を大切に、よりよい場所を一緒につくっていただきたいことを強く要望させていただきます、次の質問に移ります。

質問事項3、農業の未来を守るには

米の販売価格は、1年前と比べておよそ2倍となっており、「物価高で生活が苦しい」というお声を頂戴している。農家からは、「肥料や除草剤も高騰していて苦しい」「トラクターなど維持管理が大変」「後継者がいなくて、私たちがいなくなったら、家も農家を続けられない」など、生産コスト上昇や後継者不足による、苦しいお声も頂戴している。さらには、町内には耕作されていない土地が散見される。そこで以下伺う。

- (1) 当町の農業の課題をどのように分析し、対応されていくのか。
- (2) 杉戸町の農業の未来を守るために、今後どのような取組をされていくのか。

○60歳以上の農業従事者の割合が令和2年では80%まで増え、急速に高齢化し、今後も離農者が増え、担い手不足の深刻化を懸念しているとあります。農地中間管理機構を活用して、集積・集約化を進めておりますが、集積・集約化された先の農家から担い手がないと将来への不安の声もお聞きしています。農業従事者が高齢化し、担い手不足の深刻化が懸念されるなか、今後、農業に携わっている方々が農業を続けられなくなったとき、町内の農業のあり方をどのようにイメージされているのか伺います。

農業インフラの老朽化もあり、農業も大変厳しい状況にあります。農業のインフラの整備をどうするかも大きな課題です。しかし、そういう厳しい状況だからこそ、農業においても起業家精神・やりがいを感じられるかが、とても大切だと思っております。いま、お米の価格ばかりが注目されておりますが、食卓にお米が並ぶこと自体が当然のことではないと感じております。消費者である私たちが、農家の方々がどのように思いで生産してくださっているのかを忘れてはならないと思っております。私たちの食を支えてくださっている方々への感謝から、感謝が飛び交う杉戸町であってほしいと思っております。地元の生産者の方々をはじめ、智慧を出し合いながら、当町の農業を守っていただきたいと強く要望させていただきます。杉戸町に明るい未来を切り開いていけますように、微力ながら私も頑張っております。以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。